

DIPL 通信第165号をお届けします。

新年、明けましておめでとうございます。

受験生諸君にとって、日々の頑張りと成果を受験校に見てもらう時がやってきました。目一杯、頭の中を着飾っておめかしをして見てもらってください。吉報をお待ちしております。

非受験学年の皆さんは、新年度を迎え今年一年かけて挑戦することをしっかり考えてください。そして、決まったら、今日から即実践することです。明日延ばしにすることは、結局やらないで終わってしまいますよ。

DIPL 代表小島裕一

《2学期の授業のある光景》

数学の問題に取り組んでいる生徒です。彼の手はなかなか動きません。そして、ギブアップしました。彼に質問します。「なぜ困っているの？」すると、「放物線と直線の交点の座標は求めることは出来るんですが、それから何をしたらよいか分かりません。」と答えます。ノートには式が全く書かれていません。最終的な解答までを全部頭で考えようとして、結果浮かばずに書けないのです。こういう生徒がとても多いのです。解答までの過程（プロセス）が頭に浮かばなければノートに書かない。でも、ノートに図やグラフを書いて、分かっている事をどんどん記入して、それを見ながら考え解いていった方がとても解きやすいのです。つまり、分かっている事や分かった事を整理をする事で解答への道筋（方針）が見えてきます。「ここまでは出来る」のなら、そこまでをノートにしっかり書きます。求めたものが次のヒントになります。また、「何が分かれば次に進めるかな？」の自分への問いかけが必要です。特に、計算の工夫は式を実際に書き、その式を見ることで思いつくものです。頭の中だけでは無理がありますよ。

物事の決断する時が、普段の生活の中にもあります。

(1) 問題点や対処法をノートにどんどん書きだすのです。書き出すことで知識が整理されます。

その整理されたものを見ながら、また新たな考えが出てきます。

(2) 自分が良いと思うことは行動し、悪いと思うことは行動しない。ですが、迷った時のことです。

迷った時、行動しなければ新たなことは起こらない！待っていては、ためらっていては対応が遅れてしまう場合があります。でも、行動すれば新たな展開が必ず出てきます。結果の良し悪しで次の対応を考えれば良いし、それから次の解決案を考えていったらいいのではないのでしょうか。行動していくのです。予想もしなかったことが起きるかもしれませんが、でもそれは自分が行動した結果の出来事ですから、今後の自分の人生経験の貴重な一つになっていくでしょう。

「迷ったら、行動してみる！」これはプラス思考の発想です。

新たなキミに巡り合うよう、「挑戦するキミ」に期待します。

《ある高校受験生のお話》

11月末に入試に必要な内申が確定しました。彼女は内申が4上がり、志望校の見直しができるようになりました。これまで第一志望としていた都立高校が推薦入試でほぼ安全圏とっていいくらいの成績です。私は迷わず、上位ランクの都立〇〇高校の一般入試を勧めました。大学受験の実績が顕著な伸び、校長含めてその先生方が自信を持っていて、学校の雰囲気バッチリです。彼女は迷っています。いい学校とは分かっているのですが、高校の授業についていけるかが心配なのです。

ポイントは、現在の学力でこれから始まる高校での学習状況を判断出来るかということです。彼女は中3の夏から、やっと高校受験の勉強を始めました。それまでは学校・DIPLの勉強（宿題を中心とするもので、定期試験1週間前からやっとテスト勉強）中心で、目一杯勉強してきたわけではありません。つまり、ハードに勉強してきたわけではないので、勉強面に関しては「伸び切ったゴム状態」ではないのです。だから、これから始まる高校生活の中で彼女は大学受験を意識しての勉強でさらなる高い可能性を発揮出来るかもしれません。自らの可能性に限界を設ける必要はないのではないのでしょうか。現在の状況から、高校選択をする必要はありません。行きたい高校、今からの頑張りで合格出来る高校を選べばいいのではと私は思います。

また、入試オリエンテーションでもお話ししましたが、都立高校だけに限定することなく、私立高校も通いやすくなっています。何と云っても、都立高校は授業料ほか在学中にかかる費用が格段に安いです。それに対し、私立高校は授業料ほか諸費用が高いです。「その高いに見合うメリット」を感じる時、私立高校という選択もあるのではないのでしょうか。東京都は高校の授業料の大きな補助が都立・私立に関係なくあります（来年から国の補助が決まりそうですね）。

2020年の大学入試改革に伴い、来年からの高校の授業がどんどん変わることが予想されます。

「分析力」「思考力」「表現力」を育てる中身の濃い授業が展開されるのです。今までの小学校・中学校・高校にはほとんどなかったものです。一面だけを見て決めるのではなく、多方面から分析・思考・決断していくのです。AI（人工知能）では代用出来ない「人ならではのもの」を育てようとしています。

「まだ見ぬキミの可能性」に挑戦してみようではありませんか。